
ドリームキャンプ

武藤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドリームキャンプ

【Nコード】

N0883Y

【作者名】

武藤

【あらすじ】

太陽が威厳を示す小さな島国。

遙か古代の遺跡群が神の足跡を描く。

目に見えない何かの為に生贄にされ、そして忘れられていった少女の魂が世界の果てに向かうまで。

ワールドエンド

眼下では、地平まで広がる雲が黄金色に輝いている。

朝焼けに染まる雲海の遙か下には、あたしが育った町がある筈なのだけれど聳え立つアーリアの山頂からは見下ろすどころか認識する事すらできない。

夢の中でも見れない様な幻想的な光景。

これが神の視界なんだ、とあたしは思う。

あの太陽が完全に姿を現す頃には、あたしの身体は冷たくなるけれどもう寂しくは無い。

あたしはあたしの身体に別れを告げて、この雲海の中に思いつきり飛び込んで地平の果てへ行くんだ。

アーリアの山脈を越えてニニギの草原も越えて、ついには一度も見れなかった海も越えていく。

その旅の途中では、月よりも鮮やかに輝く鳥の群れや、海を二つに割る滝に棲む巨大な竜に出逢うかもしれない。

その竜の背中に乗って、世界を照らす灯台を探すのも良い。

あたしが生きたアーリアの大地は狭過ぎて何も無かった。

狭すぎたから、目に見えない何かの為にあたしは死ななければならなかった。

だからきつと、きつと想像できるものの総てはアーリアの外にある。

果てへ。

この雲海の果てへ行こう。

砂糖の丘から

どこからか唄が聞こえる。

往来の子供達が一日の平和を祈る無邪気な唄か、草原を往く大人達が狩りの豊饒を願い無事の帰還を誓う勇壮な唄か。

近くの様で遠くにも聞こえるその歌声が、カンカンと槌を打ち付ける音に混じるのを聴いているのは心地良かった。

「あれは今何を作ってるの？」

「書物を所蔵する館だとか。文字が読める人なんかほとんどいないのに」

ジツタ婆は余り興味が無さそうにそう言った。

町の中心に画期的な建造物ができる事よりも、何やら薬の調合の方が忙しそうだ。

「あたしにしてくれた様に、子供達に文字を教えてあげれば良いのに。それこそその館の中にそういう場所を作ってさ」

「…今時の子は文字なんで覚えたがらないのさ。草原で狩りをして薬草を集め唄を歌う。大昔の記録なんかに興味を示すのはアンタみたいな変わった子だけだ」

本は良い。

本の中には空想の世界が雄大に広がっている。

それは文字の羅列にしか過ぎないのだけれど、一つ一つの文字が重なり、或いは離れてどこまでも広がっていく空想の世界に自分が収斂されていく瞬間がとても好きだ。

実際には出逢っただけで失神してしまう様な大きい動物やこの世のものとは思えない程に美しい花。

想像の限り、その世界に想いを馳せることができる。

そんな本が幾つも集まる場所ができるならあたしはとても嬉しく思う。

「…ところでアンタもう家に帰らないと。神殿からアジリが詔勅を持って来るんだろっ」

忘れてた。

そもそもあたしの家なんかには神殿から使いが来るなんて今まで無くて、しかもあたしに用があるっていうのだからどうしたら良いのかジツタ婆に相談しに来たんだった。

「いけない。すぐ帰らないと。またね」

あたしは飛び上がってジツタ婆の顔も見ずに外に出た。

長い間、雨が続けていたのが嘘の様に今日は雲一つ無い。

書物の館はまだ骨組みすらできていないけれど、心地良い槌の音と、

額に汗を流すアジリの人達の晴れやかな表情を見ると、今日は
きっと何か良い事が起きると予感がした。

少しだけ家に帰る足取りが軽くなった。

いつの間にか唄は聞こえなくなっていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0883y/>

ドリームキャンプ

2011年11月12日10時24分発行